

# 登 録 速 報

農 薬 名：クミアイバサグラン液剤（ナトリウム塩）（登録番号：第 16130 号）

適用拡大登録月日：平成27年9月30日

適用拡大登録内容：

- 全作物名の適用土壌の区分を削除する。
- 作物名「移植水稻」及び「直播水稻」の適用地帯の記載を削除し「-」の記載とする。
- 作物名「移植水稻」の適用雑草名「水田一年生雑草(イ科を除く)、マツバイ、ホトメ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ハラモダカ、オモダカ」「クログワイ」「コウキガラ」「エゾノササカゲサ」「シスイ」「クサネム」の使用時期を「移植後15～55日 但し 収穫50日前まで」に変更する。
- 使用時期中の作物名の記載を削除する。

## 【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンゾグロンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量				
移植水稻	水田一年生雑草 (イ科を除く) マツバイ ホトメ ウリカワ オモダカ ミスガヤツリ ハラモダカ クログワイ コウキガラ エゾノササカゲサ シスイ クサネム	移植後 15～55 日 但し 収穫 50 日前まで	500～700 mL/10a	70～100 L/10a	2 回 以内	落水散布 又は ごく浅く湛水 して散布	-	2 回以内
直播水稻	水田一年生雑草 (イ科を除く) マツバイ ホトメ ウリカワ オモダカ ミスガヤツリ ハラモダカ クログワイ	は種後 35～50 日 但し 収穫 50 日前まで						

【変更後】

作物名	適用 雑草名	使用時期	使用量		本剤 の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯	ベンザリン を含む 農薬の総 使用回数	
			薬量	希釈 水量					
たまねぎ (春播移植栽培)	一年生 雑草 (休科を 除く)	移植後6月上旬まで (雑草の3~4葉期) 但し 収穫30日前まで	60~120 mL/10a	70~100 L/10a	1回	雑草 茎葉 散布	全域	1回	
たまねぎ (秋播移植栽培)		移植後生葉4葉期まで (雑草の3~4葉期) 但し 収穫30日前まで							
らっきょう		出芽後(雑草の3~6葉期) 但し 収穫60日前まで	100~ 200 mL/10a						
いんげんまめ		初生葉展開期 ~本葉抽出始期 (雑草の2~3葉期)	50~70 mL/10a						北海道
えんどうまめ		3~6葉期 (雑草の3~6葉期) 但し 収穫70日前まで	100~ 200 mL/10a						全域
実えんどう さやえんどう		3~6葉期 (雑草の3~6葉期) 但し 収穫40日前まで							
とうもろこし 飼料用 とうもろこし		生育期 (雑草の3~6葉期) 但し 収穫50日前まで	100~ 150 mL/10a						
ソルガム		生育期 (雑草3~6葉期) 但し 収穫30日前まで							
麦類 (小麦を除く)		生育期 (雑草の3~6葉期) 但し 収穫90日前まで	100~ 200 mL/10a						
小麦		生育期 (雑草の3~6葉期)							
はとむぎ		但し 収穫45日前まで	150 mL/10a						
べにばないんげん		生育期 (雑草の生育初期~6葉期) 但し 収穫45日前まで	100~ 200 mL/10a		1回	畦間 雑草 茎葉 散布	1回		

## 注意事項の変更：

### 【変更後】

- イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はひかえること。  
また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する事。
- 散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので、晴天時を見はからって散布するのが望ましい。
- 高温条件下では、薬害が生じやすいので異常高温下での散布はさけること。
- 重複散布は薬害のおそれがあるのでさけること。また、周辺作物にかからないように注意すること。
- 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- いんげんまめに使用する場合、本剤は葉枯・褐変症状の薬害を生じやすく、蒸散の盛んな高温乾燥条件下では薬害により減収することがあるので、雑草害が予想される場合に限り使用すること。
- たまねぎに使用する場合、直播栽培および苗床のたまねぎには、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- べにばないんげんに使用する場合、薬液が作物に飛散すると葉に褐変症状の薬害を生じるので、作物に飛散しないように注意すること。
- 水稻に使用する場合には一般的注意事項のほか下記についてとくに注意すること。
  - 本剤は水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深の浅いほど効果が安定する。
    - ・使用にあたっては落水状態にして水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。
    - ・水を落とすことができないところでは漏水のない水田に限り、できるだけ浅水状態（雑草が水面上に出る状態）にしてまきむらのないよう均一に散布すること。
    - ・散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しないこと。
    - ・処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。
    - ・深水にすると効果が劣るので注意すること。
  - イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除した後、多年生水田雑草および一年生広葉雑草の防除を目的として使用すること。
  - 本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。  
ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から増殖初期まで、クログワイでは草丈15～30cm、エゾノサヤヌカグサでは1～4葉期、シズイでは草丈10～30cm、コウキヤガラでは増殖期、クサネムでは本葉展開期が本剤散布の適期である。
  - クログワイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
  - 軟弱稲では薬害（接触害）のおそれがあるので使用はさけること。
  - 高温など薬害を生じやすい条件での使用は多めの希釈水量を用い、低濃度液をなるべく水稻にかからないように散布すること。
  - 砂質土および漏水のはげしい水田では使用しないこと。（減水深2cm/日以上）